

# 令和 5 年度 第 2 回 堺市 ICT 戦略推進本部会議 議事要旨

1 日時 令和 6 年 2 月 19 日 (月) 16:00 ~ 16:40

2 場所 本館 4 階 庁議室 (オンライン)

3 議題 【審議事項】

- ・ アナログ規制の点検・見直し
- ・ 生成 AI の活用推進
- ・ SakaI-D の推進

【報告事項】

- ・ 令和 6 年度 ICT 予算
- ・ 堺市 DX の推進
- ・ オンライン化の推進
- ・ 業務システムの標準化

## 4 議事要旨

(市長)

令和 2 年に堺市 ICT 戦略を策定して、住民サービスの向上と業務の効率化をめざして ICT の活用を積極的に進めてきた。令和 6 年度の当初予算案では、生成 AI を活用する事業がある。この生成 AI は日頃からデジタルに関心がある職員だけが使うツールでは決していない。日々の業務の効率化のために、新しいデジタルツールも積極的に取り入れる姿勢が欠かせない。

デジタルの活用が進み業務が効率化されると、住民に直接寄り添うことが必要な業務や政策、サービス企画の最終判断など、職員の能力が求められる分野に重点的に職員を配置することができる。

本日の審議事項であるアナログ規制の点検見直しと合わせて、これまでの仕事のやり方が本当に最適なのか、より効率的な方法があるのではないかという視点で、それぞれの部門のトップである本会議メンバーをはじめ、全ての職員が真剣に考えて取り組むことを徹底してもらいたい。

【事務局 審議事項・報告事項 説明】

【質疑】

(財政局長)

アナログ規制について、手続きをデジタル化する際に、これまでのアナログな方法も引き続き認め選択肢を広げるのか。それともこれまで書面で行っていたものを見直しデジタルに変更するのか。

(ICT イノベーション推進監)

まずは選択肢を増やすということを考えている。やり方をそもそも変えていくことが大事であるが今のままではデジタル手法を扱えないので、まずはデジタルを扱えるようにする規定の見直しを考えている。

(本屋副市長)

アナログ規制の見直しについて、いつまでに規制の見直しを完了させるのか、スケジュールはどのように考えているのか。いつまでに進めるかを示すことが重要である。

(ICT イノベーション推進監)

実際の洗い出し作業は令和 6 年度から取り組みを進め、夏ごろには見直し対象となる条例規則等がどれくらいの分量かを洗い出してアナログ規制見直しの方向性を決めることになる。その分量や見直しの方向性を基に新たにスケジュールを策定する。

(佐小副市長)

SakaI-D について、堺市電子申請システムなど既存の ID やパスワードを統合していく方針はあるのか。本来は 1 つに統合することにメリットがあると認識している。

(先進事業担当課長)

堺市電子申請システムの既存 ID については SakaI-D と連携して利用する。今後は徐々に SakaI-D に置き換えていき、その他のアプリに関しては今後事業者と協議を進める。

(総務局長)

アナログ規制について、総務局も取り組みを進めていくが、現在の業務を継続して実施することを前提とせず、資料に示された手法のとおり各局で検討を進めてもらいたい。

(市長)

DX 推進を妨げる職員の意識について、例えばアナログであっても前例踏襲や改革の姿勢が無いことは大いに問題がある。特に ICT の活用については早急に進める必要があり、今の研修で足りるのか疑問である。早急に意識を変えるためにどうすれば良いか総務局長と ICT イノベーション推進監の考えを示してもらいたい。

(総務局)

前例踏襲の意識が未だ職員に残る中、組織を統括する局長、部長に業務を改革するマインドが必要であると認識している。

(ICT イノベーション推進監)

部長級の職員を対象に改革マインドを単に理解するのではなく実際に行動してもらえるように研修を行ったことに手ごたえを感じている。この取り組みは継続する。マネジメントをする局長級や部長級職員のマインドが大事だと考えている。

(ICT イノベーション推進室長)

DX PRO を選定する際は改革マインドを持った職員を各局で選定することとしており、改革マインドを持った職員を DX PRO に毎年育成することで、3年後は300課あるうち約240課で育成され、大勢を占めてくる。DX PRO が業務改革を牽引することにより、職員の意識が変化すると考えている。

(市長)

大きな流れから取り残されて、住民サービスの低下を招き堺市民が堺市から離れてしまうことにもなりかねない。いつまでに職員の意識を改善できるのか、スケジュール感を持って取組を進めてもらいたい。